



おへそ

多久市立 東原庫舎中央校（義務教育学校）

学校だより NO 6

令和 8 年 8 月 2 5 日

文責 校長 本村 信

学校教育目標「夢に向かって生き生きと輝く児童生徒の育成

～地域と共に伸びゆく中央校をつくろう～

学校スローガン「夢を現実(かたち)に！チャレンジ！中央校」

2 学期が始まりました！

7月18日から始まった長い夏休みが終わりました。子供たちの夏休みの様子はいかがだったでしょうか？

今年の夏休みは、「暑い」という言葉がぴったりの夏でした。気温が35度以上の猛暑日が当たり前となり、ついに佐賀県でも40度を超える酷暑日が出てきました。外で活動するにしても、熱中症の心配をしないとイケない日が続き、また、雨もほとんど降らずに農家の方も水の管理で大変な日々を過ごされたことと思います。保護者の皆さんも体調はいかがだったでしょうか？この様子だと9月もこの「暑い」状態が続く可能性が高く、今後も最新の注意を払って対応していかないとイケないと思っております。

その中で中総体や吹奏楽コンクール、社会体育の大会などで多くの子供たちが汗を流したり、船山キャンプ場での教育キャンプや給食センターでの調理体験などを行ったりと多くのイベントに参加しました。特に今年初めて開催された県内の義務教育学校生徒会による学校の取り組み紹介では、本校生徒会12名がこの日のためにプレゼン資料を作成し、学校の取り組みを他校にアピールすることができました。よく頑張ってくれました。



義務教育学校協議会での生徒会の様子

さて、本日から2学期が始まりました。2学期は、10月に学校を挙げて行う文化発表会を中心に、前期はバス旅行や宿泊自然教室、修学旅行、後期は新人戦や生徒会役員選挙など多くの行事が予定されています。学校職員はもちろんのこと、子供たちも目標をもって日々を過ごしてほしいと考えております。今学期も保護者や地域の皆さんのご協力をお願いいたします。

夏休み前に子供たちに伝えたこと！

子供たちには、1学期の終業式の時に2つの約束をしました。

1つ目は、「できるだけ本物の体験を」です。夏休みにしかできない海や山での活動、ほかの地域の文化や風習に触れること、知らない土地に旅行に出かけるなど本物の体験をしてきてほしいと伝えました。現在は、インターネット上で検索をすればすぐに欲しい情報やその画像・動画が集まります。それを見れば一目瞭然なのですが、自分の糧となるためには、自分の体験を通して感じる事が重要です。やはり本物の体験こそが記憶に残ると考えます。



給食センターでの調理体験の様子

2つ目は、「自分の命 周りの命を 絶対を守る」です。この夏休み中にも熊本の地震、千葉の豪雨など甚大な被害をもたらした天災が発生しました。もし、この多久の地で同じことが発生したらと考えると本当に身につまされるものがあります。また、連日のニュースの中でも未成年が海や川でおぼれたという報道がなされています。暑い日が続いているので水辺で遊びたいという子供たちの気持ちは分かるのですが痛ましい事故につながりかねません。このようなことが身近で起きない、起こさないためにもこのことを伝えました。この2つのことは、夏休みだけではなく今後も継続してほしいです。

頑張った成果！

この夏、中総体やコンクール等で頑張ってきた後期課程の生徒達。特に9年生は、これまで頑張ってきた成果を発揮できたことと思います。お疲れさまでした。夏休みに行われた結果をお知らせいたします。

- ・九州中総体バドミントン 男子ダブルス(8年:嶺川 七絆) 3位
- ・佐賀県中学校吹奏楽コンクール 銅賞

校則変更（ルールメイキング）！

終業式の際に、後期課程の校則が変更されています。生徒から通学の靴の色を白以外も許可してほしいという要望があり、この要望を基に生活委員会を中心に校則の見直し（このことをルールメイキングといいます）を行いました。靴の色について自分たちで可能な範囲は、どこまでなのか、何がだめで、何が良いのかについて検討を行い、プレゼン資料を作成し、学校側に説明を行いました。検討された内容を確認した上で学校として許可を出し、終業式の後に生徒たちに周知を図ることができました。



（詳しい内容については7月17日に配布された文書をご覧ください。）

ここで、気を付けてほしいは、自分たちが希望することに対して「自分で考え、自分で決めて、自分から行動する」ことです。子供たちがこれから社会に出たときに「自分で考え、自分で決めて、自分から行動する」ことが強く求められます。このことを「主体性」といいます。世の中は常に変化しており、現在のルールでは対応できないことに出会ったら、一人一人が「主体性」をもって変化に対応しなければならない時がきます。そのためのために学生のころからこの「主体性」を育てていかなければなりません。今回のことは、子供たちの「主体性」を育てる良いきっかけとなったことと思います。

でも、ここからが大切です。自分たちで決めたルールなので自分たちで守らなければなりません。これまで、学校側(主に先生方)がこのルールについて指導や支援を行ってきました。しかし、今回から自分たちでどうしたら守っていけるのか考え、実行に移し、もし改善点があれば再度検討することが求められます。学校側は、「主体性」を育てている子供たちを陰から支えていければと考えております。

保護者の皆さんも子供たちが決めたルールが守られるように支援をお願いします。